

文化を後世に 伝えたい

Profile たなえ・はるよ

昭和26年3月25日生まれ。日本民謡協会の師範教授。家元佐々木基晴師に属する肥後基春会の宗家・田苗基春として民謡の魅力を普及している。料理店を経営していた経験を生かし、弁当を道の駅に出荷。食文化の継承にも力を入れる。旭志・津留区在住。68歳。

「民謡を歌うと歌詞の情景が鮮明に浮かびます。物語に自分が入り込めるのが魅力ですね」。民謡の歌い手として20代半ばから多くの舞台に出場し、全国大会の審査員も務める。「民謡は庶民の日常の中で生まれ、地域で自然に歌い継がれてきた文化。後世に継承する使命を持って活動しています」

物心ついた頃から歌が好き。結婚して魚屋を開業後、自宅裏にあった民謡教室へ軽い気持ちで参加したところ「先生から上手と言われて。すっかり虜になってしまいました」。NHK「素人民謡道場」の九州大会で5週勝ち抜き全国大会に出場したほか、日本テレビ系列「日本民謡大賞」でも西日本代表まで勝ち残った。「民謡は人生そのもの。全国に知人ができて世界が広がりました」と笑う。

魚屋や和食店で包丁を持ち続けた経験を生かし、現在は弁当の製造を続ける。旭志の女性による食の団体「あじさいグループ」にも所属。平成30年には自身が創作した郷土料理が評価され、県から「くまもとふるさと食の名人」に認定された。「食材から何の料理ができるか考えるのが好き。食べた人が喜ぶと、私も元気になります」

後継者不足に悩まされる民謡。次世代に魅力を伝えようと、学校で民謡を披露する活動も続けている。「今の子どもたちは民謡にふれる機会がないだけで、聴くと興味を持ってくれる。新たな文化の担い手が一人でも出てきてくれたらうれしいですね」

「菊池人」 希望者を募集します

新しいことに挑戦している人、伝統を受け継いでいる人など、菊池で頑張っている人を募集します。本市在住であれば自薦・他薦は問いません。詳しくは市長公室までお問い合わせください。

問い合わせ先

市長公室広報交流係
☎ 0968 (25) 7252

菊池人
74

民謡師範教授

田苗 春代さん



1_民謡教室で生徒を指導。旭志だけでなく鹿北や牛深でも教室を開いている 2_学校や施設で歌声を披露 3_手に入りやすい食材を活用したゴーヤの変わり合えが評価され「くまもとふるさと食の名人」に認定。「保存も数カ月可能。おすすめの料理です」